

24. 6. 2004

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

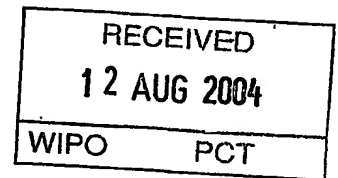
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年 6月26日

出願番号
Application Number: 特願2003-182604
[ST. 10/C]: - [JP2003-182604]

出願人
Applicant(s): 日本板硝子株式会社

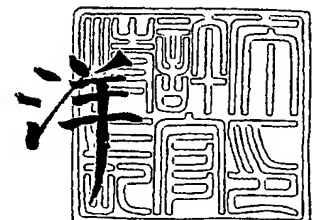


PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 7月29日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川





【書類名】 特許願

【整理番号】 P03020

【提出日】 平成15年 6月26日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H01L 33/00

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府大阪市中央区北浜 4 丁目 7 番 2 8 号 日本板硝子株式会社内

 【氏名】 浜中 賢二郎

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府大阪市中央区北浜 4 丁目 7 番 2 8 号 日本板硝子株式会社内

 【氏名】 橋本 隆寛

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府大阪市中央区北浜 4 丁目 7 番 2 8 号 日本板硝子株式会社内

 【氏名】 永田 秀史

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府大阪市中央区北浜 4 丁目 7 番 2 8 号 日本板硝子株式会社内

 【氏名】 大野 誠治

【特許出願人】

 【識別番号】 000004008

 【氏名又は名称】 日本板硝子株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100086645

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 岩佐 義幸

 【電話番号】 03-3861-9711

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 000435

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9113607

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 レンズ付き発光素子

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

発光部領域を有する発光素子と、

前記発光素子上に設けられ、前記発光部領域での発光強度の極大位置を結ぶ線上にまたはその線に隣接した位置に、レンズの中心が位置する複数の球面レンズの一部分が隣接配置された、または前記線に沿った軸を有する複数のシリンドリカルレンズの一部分が隣接配置された、または前記球面レンズの一部分およびシリンドリカルレンズの一部分が隣接配置された複合レンズと、
を備えるレンズ付き発光素子。

【請求項 2】

前記発光部領域での発光強度の極大位置を結ぶ線が、3つの線分よりなる略U字形である場合に、

前記複合レンズは、各線分の両端またはその近傍に中心が位置する4つの球面レンズの一部分と、各線分の中間部において、前記線に平行な軸を有する3つのシリンドリカルレンズの一部分とが隣接配置されている、請求項1に記載のレンズ付き発光素子。

【請求項 3】

前記発光部領域での発光強度の極大位置を結ぶ線が、3つの線分よりなる略U字形である場合に、

前記複合レンズは、各線分の中間位置近傍に中心が位置する3つの球面レンズの一部分が隣接配置されている、請求項1に記載のレンズ付き発光素子。

【請求項 4】

請求項1，2または3に記載のレンズ付き発光素子を複数個、直線状に配列したレンズ付き発光素子アレイ。

【請求項 5】

前記発光素子は発光ダイオードである、請求項4に記載のレンズ付き発光素子アレイ。

【請求項 6】

前記発光素子は発光サイリスタである、請求項 4 に記載のレンズ付き発光素子アレイ。

【請求項 7】

請求項 6 に記載のレンズ付き発光素子アレイを含む、自己走査型発光素子アレイ。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、レンズ付き発光素子、特に光利用効率の向上に寄与するレンズ付き発光素子に関する。

【0002】**【従来の技術】**

光プリンタの書込みヘッドの光学系は、LEDアレイを構成する各LED素子の光点の像をレンズアレイにより感光ドラム上に結像させるように設計されている。レンズアレイには、屈折率分布型ロッドレンズアレイが用いられる場合が多い。

【0003】

従来の光プリンタに用いられるLEDアレイ、屈折率分布型ロッドレンズアレイ、感光ドラムの代表的な構成例を図1に示す。10はLED、12はロッドレンズアレイ、14は感光ドラムである。

【0004】

レンズアレイ12の実効的な口径角 θ が半角として $17 \sim 20^\circ$ であるのに対し、LED10は基本的にランバーシアン分布で発光しており、光利用効率は極めて低い。ランバーシアン分布で発光しているLEDの発光のうち、レンズアレイ12を介して感光ドラム14に伝達する光量は、およそ3～5%に過ぎない。すなわち、LEDの発光量の95～97%は利用できず、光利用効率が低いという問題があった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

光利用効率を高めるために、LED発光部の直上にマイクロレンズアレイを配置して、LED発光の指向性を少しでも狭めることによって、レンズアレイの口径角内に入射する光線を増やそうとすることが考えられる。しかしながら、一般に、光プリンタに使用されるLEDアレイの発光部は、図2に示されるように、電極20が発光部22の領域に突き出て、中央付近を塞いでしまっており、その結果、図2に示されるように、発光部22の領域の形状は略U字形の形状をしている。これを、図3に示すような一般的なマイクロレンズアレイ18で指向性を狭めようとする場合、破線24で示すレンズの光軸近傍の光線を利用するのが望ましいが、レンズの光軸近傍は、ちょうど電極20の位置に対応してしまい、その結果、十分に光利用効率を向上できないという問題点がある。

【0006】

マイクロレンズアレイを備えたLEDアレイは、下記特許文献1, 2, 3に記載されているが、これら問題点は検討されておらず、したがってマイクロレンズの形状に関するものではない。

【0007】**【特許文献1】**

特開平9-109455号公報

【特許文献2】

特開2000-347317号公報

【特許文献3】

特開2001-36144号公報

【0008】

以上のような問題は、LEDのみならず、その他の発光素子にもあてはまることである。

【0009】

本発明の目的は、レンズアレイを用いて感光ドラム上に発光素子アレイの発光部の像を結像させる、いわゆる光プリンタに使用する発光素子アレイの光利用効率を向上させることにある。

【0010】

本発明の他の目的は、光利用効率を向上させたレンズ付き発光素子を提供することにある。

【0011】

本発明のさらに他の目的は、光利用効率を向上させたレンズ付き発光素子アレイを提供することにある。

【0012】**【課題を解決するための手段】**

本発明のレンズ付き発光素子のレンズは、単一の球面レンズではなく、複数の球面レンズ、または複数の球面レンズおよびシリンドリカルレンズを組合せた複合レンズである。

【0013】

このような複合レンズの設計は、以下のようにして行う。

【0014】


(1) 発光素子の発光強度の極大位置を結ぶ曲線あるいは折れ線上にまたはその線に隣接した位置にレンズの中心が位置する複数の球面レンズの一部分を隣接配置した複合レンズ、または、その線に沿った軸を持った曲線状または折れ線状シリンドリカルレンズの一部分を隣接配置した複合レンズ、または、球面レンズの一部分およびシリンドリカルレンズの一部分を組合せた複合レンズである。

【0015】

(2) 発光素子の発光強度の極大位置を結ぶ曲線あるいは折れ線が、略U字形状である場合、略U字の3つの線分の各両端またはその近傍に球面レンズの一部分を設け、その中間部分にシリンドリカルレンズを設け、それらを互いに隣接配置した複合レンズである。なお、ここに略U字形状とは、発光素子の発光強度の極大位置を結ぶ曲線あるいは折れ線が、全体として略U字形をなしていることを単に表している。

【0016】

(3) 上記(2)と同様の発光素子の場合、略U字形状をなす3つの線分の中間位置近傍に中心が位置する3つの球面レンズの一部分を設け、それらを互いに



隣接配置した複合レンズである。

【 0 0 1 7 】

したがって、本発明のレンズ付き発光素子は、発光部領域を有する発光素子と、前記発光素子上に設けられ、前記発光部領域での発光強度の極大位置を結ぶ線上にまたはその線に隣接した位置に、レンズの中心が位置する複数の球面レンズの一部分が隣接配置された、または前記線に沿った軸を有する複数のシリンドリカルレンズの一部分が隣接配置された、または前記球面レンズの一部分およびシリンドリカルレンズの一部分が隣接配置された複合レンズとを備えている。

【 0 0 1 8 】

前記発光部領域での発光強度の極大位置を結ぶ線が、3つの線分よりなる略U字形である場合には、前記複合レンズは、各線分の両端またはその近傍に中心が位置する4つの球面レンズの一部分と、各線分の中間部において、前記線に平行な軸を有する3つのシリンドリカルレンズの一部分とが隣接配置されている。

【 0 0 1 9 】

また、前記発光部領域での発光強度の極大位置を結ぶ線が、3つの線分よりなる略U字形である場合には、前記複合レンズは、各線分の中間位置近傍に中心が位置する3つの球面レンズの一部分が隣接配置されている。

【 0 0 2 0 】**【発明の実施の形態】****【実施例 1】**

本発明のレンズ付き発光素子は、図 4 (A) に示すように、LED の略U字形の発光部 2 2 に対して、その上に、複合レンズ 3 0 を設ける。

【 0 0 2 1 】

略U字形の発光部の発光強度の極大位置を結ぶと、折れ線 3 2 が形成される。この折れ線 3 2 の3つの線分の各両端またはその近傍に中心が位置する4つの球面レンズの一部分を設け、その中間部分に3つの各線分に平行な軸を有する3つのシリンドリカルレンズの一部分を設け、それらを互いに隣接配置して複合レンズ 3 0 が形成される。

【 0 0 2 2 】




図4 (B) は、複合レンズ30の構造を示す平面図である。図中、点33, 34, 35, 36は、図4 (A) に示す略U字形折れ線32の3つの線分32a, 32b, 32cの各両端を示す。複合レンズ30は、点33を中心とする球面レンズの一部分43と、点34を中心とする球面レンズの一部分44と、点35を中心とする球面レンズの一部分45と、点36を中心とする球面レンズの一部分46とを有している。複合レンズ30は、さらに、線分32aに平行な軸を有するシリンドリカルレンズ48の一部分と、線分32bに平行な軸を有するシリンドリカルレンズ50の一部分と、線分32cに平行な軸を有するシリンドリカルレンズ52の一部分とを有している。これら4つの球面レンズの一部分と、3つのシリンドリカルレンズの一部分とは、図示のように隣接配置されている。

【0023】

図4 (B) には、複合レンズの形状を理解させるために、X-X' 線断面図およびY-Y' 線断面図も示している。

【0024】

このように複合レンズ30は、略U字形発光部22の各部に球面レンズの光軸中心、または、シリンドリカルレンズの軸を一致させ、その球面レンズの一部分と、シリンドリカルレンズとを複合した特殊な形状のレンズである。


【0025】

このような、略U字形の発光部形状に合わせた複合レンズを用いることによって、略U字形発光部の各部分ごとに、複合レンズの各部分を用いて、発光光線を光軸方向、すなわち、ロッドレンズの方向に屈折させることができ、ロッドレンズの方向にランバーシアン発光の指向性を狭めることが可能になる。図5に、その様子を示す。

【0026】

本実施例の複合レンズアレイ30を用いて、ロッドレンズアレイ12を介して感光ドラム14上に形成した、LEDの画素像の光量分布を図6 (A) に示す。複合レンズのない場合の光量分布 (図6 (B)) に対して、画素中心部分の光量の低部分が消失し、良好な分布となった。

【0027】



このときの光量を測定したところ、複合レンズのない場合に比べて、1.7倍の明るさとなった。

【0028】

以上、本発明の実施例によって、本発明のレンズ付き発光素子の光利用効率向上効果が確認できた。

【0029】

なお、本発明の複合レンズは、例えば、図7に示されるような、略U字形発光部22の上に、各々中心を位置させた3つの球面レンズの一部分を、「三つ葉のクローバ」のような形状に組合せたような形状であっても、同様な効果が得られる。

【0030】

このような複合レンズは、次のようにして設計される。略U字形のLED発光部の発光強度の極大位置を結ぶと、折れ線32が形成される。この折れ線32の3つの線分の間位置近傍に中心53, 54, 56が位置する3つの球面レンズ63, 64, 66の一部分を設け、それらを互いに隣接配置する。

【0031】**【実施例2】**

実施例1では、発光素子アレイとして、LEDアレイの場合について説明した。

【0032】

本実施例では、発光素子アレイとして、いわゆる「自己走査型発光素子アレイ」を用いた。この場合も、上記と同様の光利用効率向上効果が確認できた。

【0033】

自己走査型発光素子アレイは、発光素子アレイの構成要素としてpnpn構造を持つ発光サイリスタを用い、発光素子の自己走査が実現できるように構成したものであり、特開平1-238962号公報、特開平2-14584号公報、特開平2-92650号公報、特開平2-92651号公報に開示されている。

【0034】

また、特開平2-263668号には、転送素子アレイをシフト部として、発

光部である発光素子アレイと分離した構造の自己走査型発光素子アレイが開示されている。

【0035】

図8に、分離タイプの自己走査型発光素子アレイの等価回路図を示す。この自己走査型発光素子アレイは、転送用サイリスタ T_1 , T_2 , T_3 , …、書込み用発光サイリスタ L_1 , L_2 , L_3 , …からなる。シフト部の構成は、ダイオード接続を用いている。 V_{GK} は電源（通常5V）であり、電源ライン72から各負荷抵抗 R_L を経て各転送用サイリスタのゲート電極 G_1 , G_2 , G_3 , …に接続されている。また、転送用サイリスタのゲート電極 G_1 , G_2 , G_3 , …は、書込み用発光サイリスタのゲート電極にも接続される。転送用サイリスタ T_1 のゲート電極にはスタートパルス ϕ_S が加えられ、転送用サイリスタのアノード電極には、交互に転送用クロックパルス ϕ_1 , ϕ_2 が加えられる。これらクロックパルスは、クロックパルスライン74, 76を経て供給される。書込み用発光サイリスタのアノード電極には、信号ライン78を経て、書込み信号 ϕ_I が加えられている。

【0036】

図9に、このような自己走査型発光素子アレイのチップ80を示す。チップ両端にボンディングパッド82が設けられ、発光用サイリスタの発光部（略U字形）84がチップの縁部に沿って直線状に配列されている。なお、転送用サイリスタアレイは、図示を省略してある。

【0037】

本発明は、以上のような自己走査型発光素子アレイの発光用サイリスタアレイに適用できる。複合レンズアレイを設けた発光用サイリスタアレイの一部拡大図を図10に示す。この拡大部分は、図9に点線で囲った部分に相当している。図11に、図10の側面を示す。

【0038】

図10および図11から、発光用サイリスタの略U字形の発光部84のアレイ上に、実施例1で説明した複合レンズ30よりなるアレイが設けられている。

【0039】

**【発明の効果】**

本発明の複合レンズ付き発光素子によれば、ランバーシアン分布で発光する光の利用効率を高めることができる。また、本発明の複合レンズアレイ付き発光素子アレイを用いることによって、発光光線を有効にロッドレンズに導くことができ、光利用効率を大幅に向上させることができる。

【図面の簡単な説明】**【図 1】**

従来の光プリンタに用いられるLEDアレイ，屈折率分布型ロッドレンズアレイ，感光ドラムの代表的な構成例を示す図である。

【図 2】

発光部領域の形状を示す図である。

【図 3】

従来のレンズ付きLEDアレイを用いた場合の感光ドラムへの光線の状態を示す図である。

【図 4】

本発明のレンズ付き発光素子の一実施例を示す図である。

【図 5】

本発明のレンズ付きLEDアレイを用いて、感光ドラム上に光を照射する様子を示す図である。

【図 6】

複合レンズアレイを用いて、ロッドレンズを介して感光ドラム上に形成した、LEDの画素像の光量分布を示す図である。

【図 7】

本発明のレンズ付き発光素子の他の実施例を示す図である。

【図 8】

自己走査型発光素子アレイの等価回路を示す図である。

【図 9】

自己走査型発光素子アレイのチップを示す図である。

【図 10】

複合レンズアレイを設けた発光用サイリスタアレイの一部拡大図である。

【図 11】

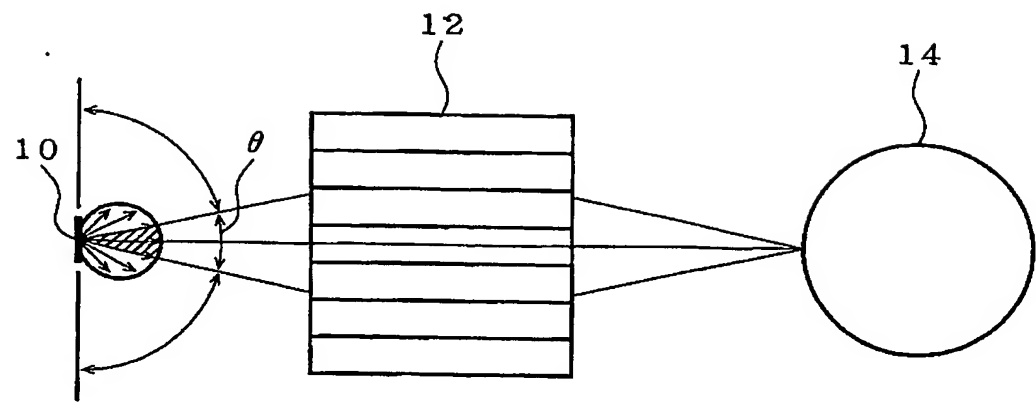
図 10 の側面図である。

【符号の説明】

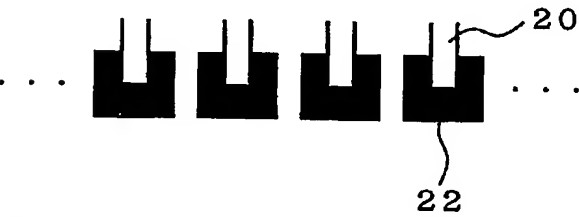
- 10 LED
- 12 ロッドレンズアレイ
- 14 感光ドラム
- 18 マイクロレンズアレイ
- 20 電極
- 22 発光部
- 30 複合レンズ
- 32 折れ線
- 43, 44, 45, 46 球面レンズの一部分
- 48, 50, 52 シリンドリカルレンズの一部分
- 72 電源ライン
- 74, 76 クロックパルスライン
- 78 信号ライン
- 80 チップ
- 82 ボンディングパッド
- 84 発光用サイリスタの発光部

【書類名】 図面

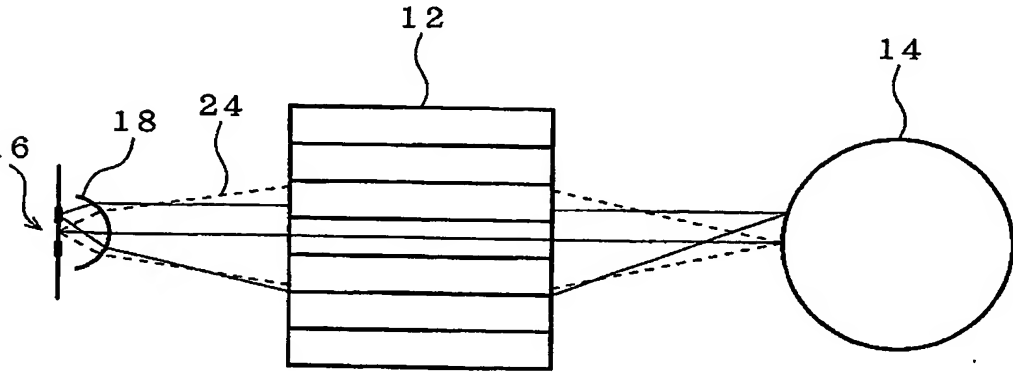
【図 1】



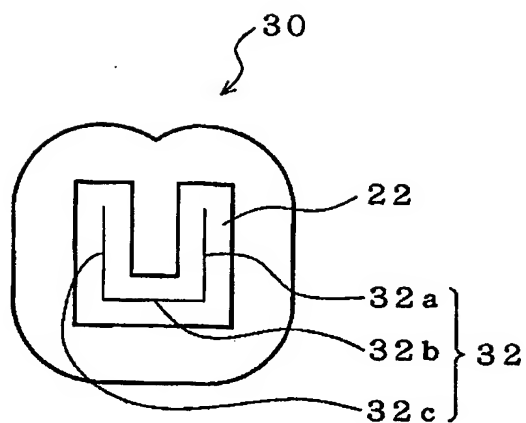
【図 2】



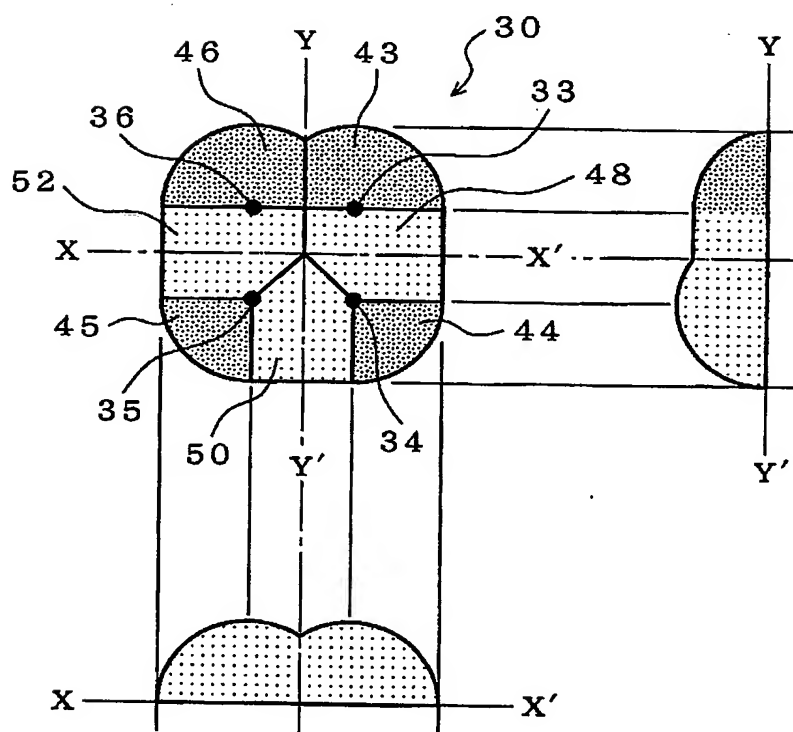
【図 3】



【図4】

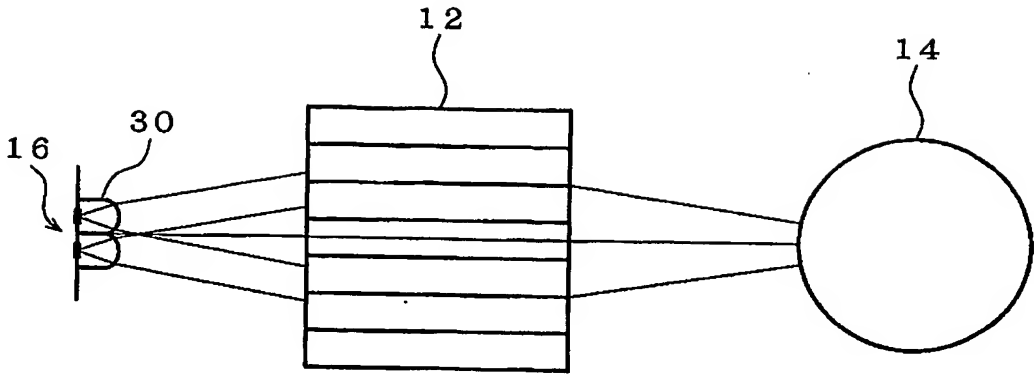


(A)

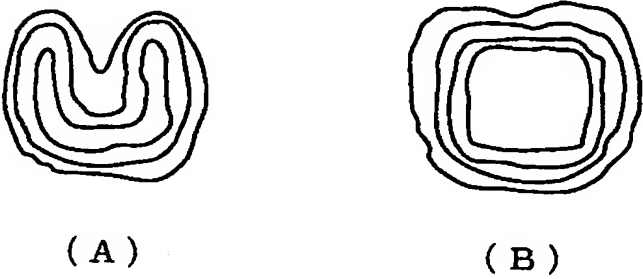


(B)

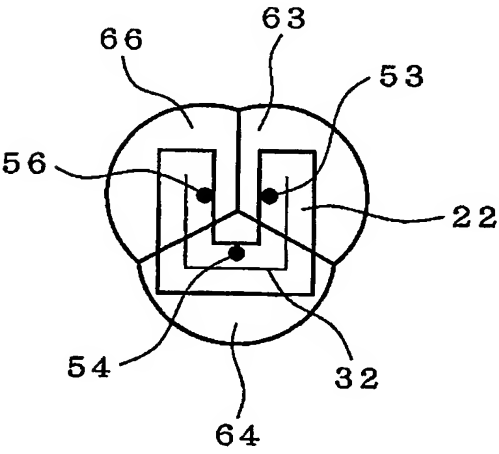
【図 5】



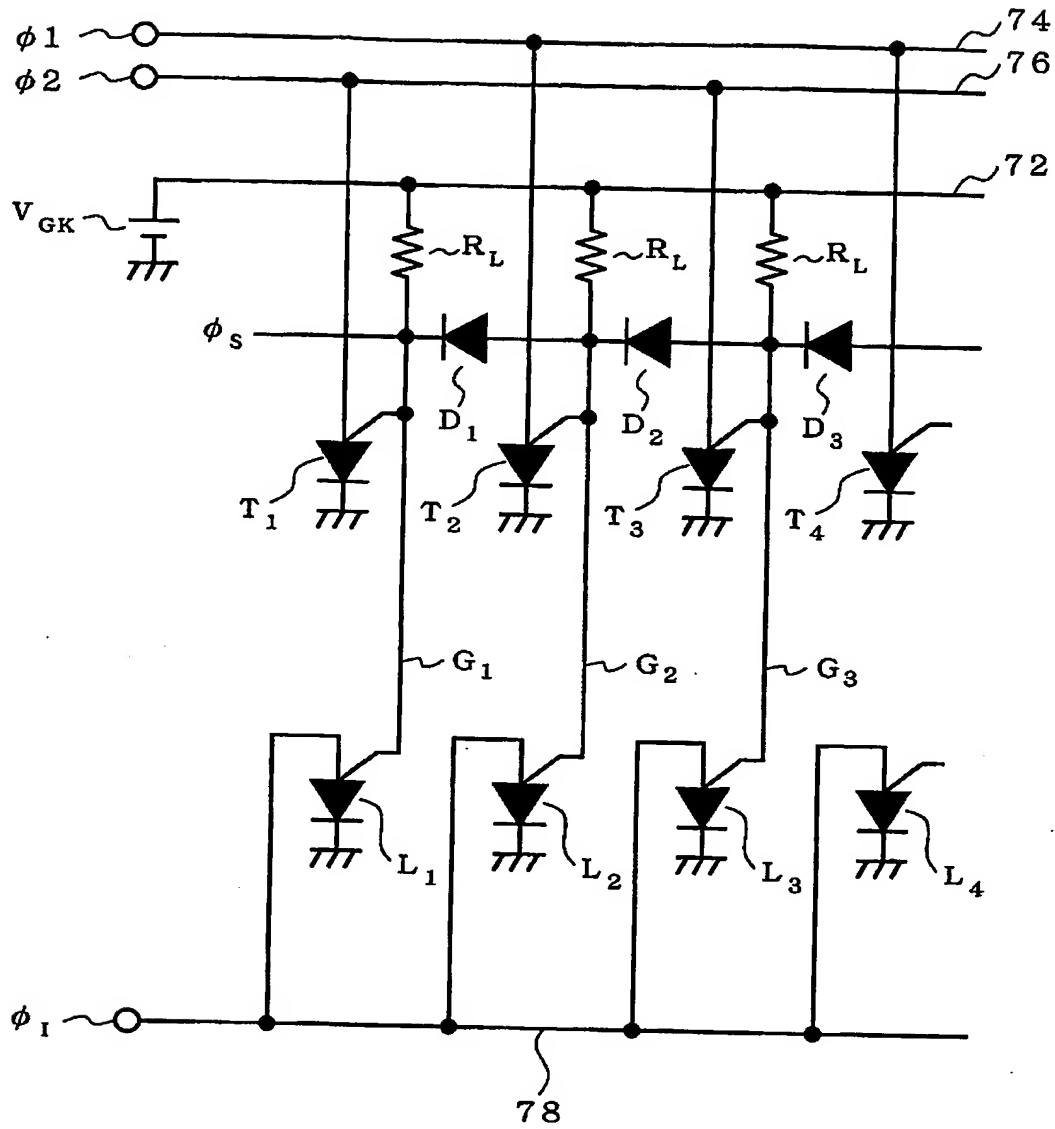
【図 6】



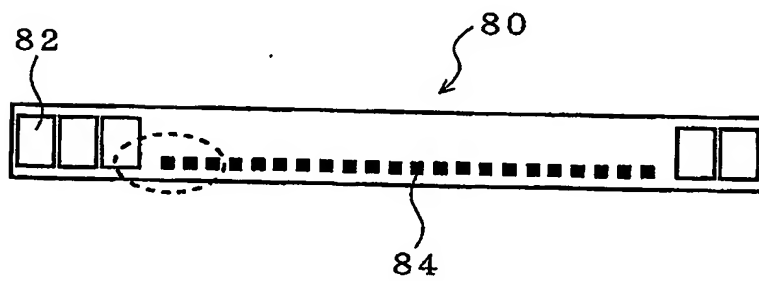
【図 7】



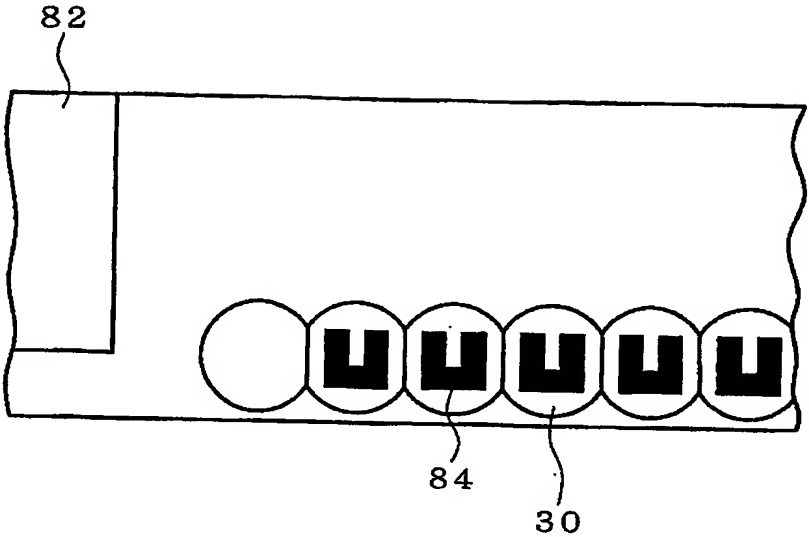
【図 8】



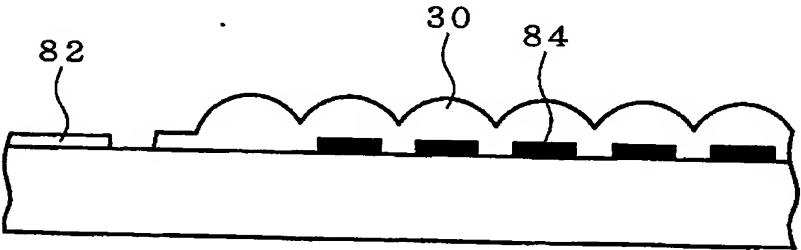
【図 9】



【図10】



【図11】





【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 レンズアレイを用いて感光ドラム上に発光素子アレイの発光部の像を結像させる、いわゆる光プリンタに使用する発光素子アレイの光利用効率を向上させる。

【解決手段】 LEDの略U字形の発光部22に対して、その上に、複合レンズ30を設ける。略U字形の発光部の発光強度の極大位置を結ぶと、折れ線32が形成される。この折れ線32の3つの線分の各両端に中心が位置する4つの球面レンズ43, 44, 45, 46の一部を設け、その中間部分に3つの各線分に平行な軸を有する3つのシリンドリカルレンズ48, 50, 52の一部を設け、それらを互いに隣接配置して複合レンズ30が形成される。

【選択図】 図4

特願 2003-182604

ページ: 1/E

出願人履歴情報

識別番号

[000004008]

1. 変更年月日

2000年12月14日

[変更理由]

住所変更

住 所

大阪府大阪市中央区北浜四丁目7番28号

氏 名

日本板硝子株式会社

2. 変更年月日

2004年 7月 1日

[変更理由]

住所変更

住 所

東京都港区海岸二丁目1番7号

氏 名

日本板硝子株式会社